

研究機関：広島大学

研究課題名：好塩基球活性化に着目したアナフィラキシーの病態解明と重症アナフィラキ

シーのリスク因子に関する検討

研究責任者名 広島大学大学院医系科学研究科救急集中治療医学 教授 志馬伸朗

研究期間 2017年1月23日（倫理委員会承認日）～ 2026年3月31日

対象者

2003年4月から2024年3月の間に、広島大学病院救急科でアナフィラキシーに対する治療を受けられた患者さん。また、2015年1月から2017年1月23日（倫理委員会承認日）の間に広島大学病院皮膚科に通院中のアナフィラキシーではない患者さん。

意義・目的

蜂刺傷や食物、薬の投与などにより、血圧低下などの全身症状を引き起こす重症なアレルギーをアナフィラキシーといいます。私たちは、アナフィラキシーの原因や背景などから重症化する要因を調べ、アナフィラキシーの病態を明らかにすることを計画しています。アナフィラキシーの発生にはヒスタミンという伝達物質が重要とされ、血液中では主に好塩基球の役割が注目されています。そのため、アナフィラキシーを発症された患者さんとアナフィラキシーでない患者さんの血液中のヒスタミン値と好塩基球の活性化の測定結果を、本研究に役立てさせて頂きたいと思っています。

この文書は、本研究へのご理解とご協力をお願いさせて頂くためのものです。

方法

本研究は、診療録（カルテ）情報とアレルギー関連の検査（ヒスタミン値、好塩基球活性化検査）を調査して行います。カルテから使用する内容は患者 ID、年齢、性別、身長、体重、基礎疾